

平成30年度 第1回刈谷市行政評価委員会 議事要旨

- 日 時 平成30年5月30日（水）午後2時00分～3時00分
- 場 所 刈谷市役所 402会議室
- 出席者 昇秀樹、吉本理沙、佐野真紀、奥村勇雄、面高俊文、山田達也、野村裕子、森雅博
- 事務局 市長、川口副市長、稲垣副市長、企画財政部長、企画調整監兼企画政策課長
他

（以上、敬称略）

1 議題・協議結果

（1）行政評価の進め方について

資料「平成30年度第1回刈谷市行政評価委員会」により説明。平成30年度の外部評価のテーマは、第1部として「まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組等」、第2部として「教育に関する施策の内容」に決定。

（2）外部評価対象事業選定について

資料「外部評価項目選定調査票」により説明。第1部の評価対象は、基本目標「しごと・雇用創出支援」に位置付けられている取組、第2部の評価対象は、総合計画に位置付けられている教育委員会所管の施策のうち、各委員の選定により決定。

（3）今後のスケジュールについて

資料「平成30年度第1回刈谷市行政評価委員会」により説明。今年度は年2回の開催とすることに決定。第2回は7月27日（金）に開催予定。

評価項目の選定にあたり要望があった参考資料は後日事務局から送付。

2 会議資料

資料：平成30年度第1回刈谷市行政評価委員会

資料：外部評価項目選定調査票

事前配布資料；第7次総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略

3 議事要旨

○情報公開の確認

（1）行政評価の進め方について

（2）外部評価対象事業選定について

（3）今後のスケジュールについて

※関連があるため、一括して審議

(事務局より、資料の説明)

委員 第1部のまち・ひと・しごと創生総合戦略の評価項目として工業・商業・農業のうちどれを選ぶかにあたって、それぞれの項目がどれくらい
の予算で、どういう戦略で進めてきたのか、過去3年間ぐらいの状況が
わかる資料はあるのか。

事務局 事務局にて各項目を整理して、数日中に参考資料として全員に送付さ
せていただく。

委員 第2部の教育委員会事務の評価項目についても、教育委員会の予算と
して、市がどれくらい重点を置いていて、事業がどのように変わってき
たのか等がわかる資料をいただきたい。

事務局 第1部と同様にさせていただきます。

教育内容の充実に関する分野については、県として教員の人件費がほ
とんどであるが、市の予算付けに関する部分のみでお示ししていきたい。

委員長 先ほど市長からお話いただいた特別支援学校は、普通は県立のとこ
ろが多いと思うが、市立で整備する必要性や、総合計画上の位置付けは
どうなのか。

事務局 第7次総合計画の策定当時はあくまで特別支援学校は県が設置するの
が基本で、市としては誘致していきたい考えであった。刈谷市周辺であ
れば知的障害のある方の特別支援学校は安城市やみよし市に、肢体不自
由のある方の特別支援学校は半田市や岡崎市にあり、西三河地域の西側
に県立学校の設置は難しいなかで、刈谷市として設立し、保護者や子ど
もたちの長時間通学の負担を軽減していこうという判断をした。

委員長 特別支援学校を県立または市立で設立すべきなのか、事前の政策評価
として格好の事例である。こうした事例は教育関連だけに留まらず、国・
県・市町村が役割分担を抱える中で、通常の枠組みを超えた政策判断を
どこまで研究や評価できるのか。通常の小学校や給食センターとの併設
は全国的にも珍しいやり方ということで、面白い事例と考えている。

委員 国、県、市の基本的な役割は決まっているが、それが必ずしも合理的
とは限らない。市立の特別支援学校については全国的にも珍しいことな
のかもしれないが「県の役割だから市は関係ない」ということはなく刈
谷市がしっかりと対応してくれたということで大変良い事例であると思
う。

- 委員 どの事業を選定すべきか非常に悩ましいところだが、判断基準や考え方はあるか。
- 事務局 ご提示させていただいた事業の内「刈谷市にとって最も重要なものを1つ選定してほしい」ということではない。全て重要な事業であるということが前提であるため、委員の皆様が「このことについて聞いてみたい」というものを選定していただきたい。
- 委員 選定の参考になるような資料をご提供いただけないか。個々の事業がどこまで進捗して、今後どういう状況になっていくのかがわかるようになっているとよい。
- 事務局 総合計画の進捗管理をする上で中間評価を実施していることを踏まえて整理を行い、資料をご提供させていただく。
- 委員 中間評価はどのように実施しているのか。
- 事務局 総合計画の中間年次にあたる5年目の評価を、全施策にわたって実施している。
- 委員 刈谷市は16万人都市を目指すということがポイントであり、ほとんどの自治体で人口が減少していく中、刈谷市は増加しているということは良いことだと思う。そこでなかなか難しいとは思いますが、刈谷市の人口増加に寄与した人が商業、工業、農業いずれの職業に携わっているか等を把握していれば参考に教えてほしい。
- 事務局 データの把握は難しいが、人口ビジョンにおける分析として、刈谷市の人口については、就職に伴って転入する20歳代の方が人口を下支えしている状況である。また刈谷市は第二次産業の就業率が全国トップクラスに多く、リーマンショック時は人口が減っていることもあり、景気の影響を強く受けているといえる。
- 委員 刈谷市に専業農家はどれくらいあるか把握しているか。
- 事務局 平成27年2月1日現在で163戸である。
- 委員 人口を16万人にするために、商業、農業、工業それぞれに携わる誰もが魅力的に生きがいを持って働いているまちをつくるということをベースに検討するのが良いと思う。
- 事務局 ご提示させていただいた事業の中に何が大事で何が大事ではないということはない。委員の皆様が「今回はこれを外部評価で聞いてみたい」という率直な意識で選定していただくことで問題ない。